



園だより

第5号

令和2年10月29日
駿河台大学第一幼稚園
園長 田所 恒子

箱根合宿を終えて

秋の深まりとともに、小学校で就学時健診が行われ始めました。

学級で就学時健診を話題に取り上げると、健診を終え子どもが「幼稚園の名前を聞かれた」「目の検査もしたよ」と、質問されたことや健診の様子を嬉しそうに、そして自慢げに友達に伝えてくれたそうです。健診に不安げだった子どもも、友達の話に安心し、楽しみにする姿に変わったと担任が話してくれました。健診を機に進学する小学校を意識し始めた年長児は、入学や小学校生活への期待を少しずつ高めていきます。

これから「幼稚園と小学校の接続期」に向かう年長児は、10月8・9日に駿台学園セミナーハウスへ箱根合宿に出かけました。今年はコロナ禍のため、例年、夏季休業日直前に二泊三日で行っていた合宿が、この時期に一泊二日での実施となりました。秋雨前線の影響や三密を避けての行動、濃縮された行程と、例年と異なる合宿でした。しかし、保護者の方と離れて先生や友達と生活する中で、協力して楽しみ、そして自信をつけるなど、子どもたちに多くの成長が見られた合宿となりました。

一番成長を感じ、嬉しかったのは、「お母さんと一緒に入れたから絶対あるはず」とリュックサックから指示された物を出し、自分のことは自分で行おうとする自立した姿でした。幼児期には、身の回りの始末など身近なことを自分で行おうとする気持ちを育み、自立して生活する力を育てていくことがとても重要です。この気持ちは、手をかけ過ぎても、逆に「自分でしなさい」と任せ過ぎても育ちません。年少児の頃から、やり方のポイントを示すなど最初は手をかけながら、次第に見守り、できたらほめて意欲を高めていくことが大切です。合宿の持ち物を保護者が全て準備してしまうのではなく、目をかけながら一緒に行ったことにより、子どもたちは、「絶対ある」という自信をもち安心して合宿を楽しめたのです。

二つ目は、友達と考えを出し合い、協力して生活を共にできたことです。例えば、8箇所ベッドのどこに寝るかということは、子どもたちには、大きな課題でもあり、楽しみでもありました。私のグループの6人は、セミナーハウスに着くなり「ここがいい」「あそこがいい」とベッドを見て回っていました。決まるのだろうかと心配でしたが、「ジャンケンで決める?」「みんなでしたら大変じゃん。」「自分がいいベッドを言って、誰かと同じになったらジャンケンしたら?」と互いに意見を出し合い解決していきました。年少児の頃には、自分の思いを言葉で伝えられず、表情や動きで示す子どももいます。先生たちは、思いを受け止めながら少しずつ言葉で表せるように指導していきます。年中児は、気の合う友達に思いや考えを言えるようになります。そのため、時々思いの違いからぶつかり合うことも多くなり、遊びの中で自分とは違う考えや思いがあることに気づいていきます。さらにミニ運動会を通して、友達との話し合いを重ねてきた年長児には友達と一緒に課題解決していく力が育っていました。

担任から、合宿後の子どもたちの変化や成長がたくさん聞かれます。成長した力を活かして、年長児は、お店屋さんごっこを計画しています。お客として招かれる年中児・年少児にも大きな影響を与え、遊びを豊かにしていくことでしょう。楽しみです。



今年度、小学校訪問は難しいと考えます。小学校の様子を伝えるため紙芝居や絵本などの視聴覚教材を購入しました。



マスクを外す食事中は三密を避けるため、換気に加え、机の片側に座りました。



使用したシーツや布団カバーを協力してたたみました。子どもたちの後ろに見えるのは就寝用の二段ベッドです。



年少組の初めての遠足。先生に手伝ってもらいながら、シートの敷き方をはじめ遠足での身の回りの始末の仕方を身につけていきます。



年中組の遠足では、自分の思いを言葉や動きに表し、友達の考えに刺激を受けながら楽しそうに遊ぶ姿が見られました。